ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成 30（2018）年
１０月２０日発行
第２１号

夢のふくらむ学校

学習の評価について（中高等部編）

補習校では、学習指導要領に基づきカリキュラムを作成し、「指導と評価の一体化」を目指して、「おしらせ・通知表」を作成しています。今週は中高等部の学習と評価の関係、そして「おしらせ･通知表」の意義とあり方について簡単にご説明いたします。なお、詳細は、配付済みの「『おしらせ・通知表』の見方について」をご覧ください。

＜中学校学習指導要領より＞

「国語」の目標（抄）→ **社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に扱う事ができる。（略）**

※具体例・・・（第１学年［読むこと］抄）説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。
（第２学年［話すこと･聞くこと］抄）説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。
（第３学年［書くこと］抄）表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する。



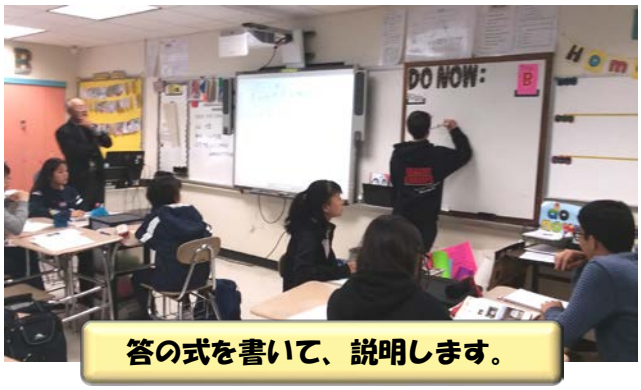
じっくり考えながら書いています。

＜解説＞

補習校の国語学習で大切なことは、「**音読・作文・視写・漢字**」とよく言われます。なかでも「視写」、「漢字練習」及び「音読」は、家庭学習での最優先事項として頑張ってきたはずです。ですから、中学生ともなれば、初等部からの学習の積み重ねはある程度あるものと思われます。蓄積した知識をいかに活用するか、いわゆるアウトプットが重要な課題になってきます。１学期に募集した「海外子女文芸作品コンクール」や今月全校に呼びかけた「補習校作文コンクール」は、その成果を試す絶好のチャンスです。この後には、漢字検定も行われます。身近な目標に向けて、授業の成果をどんどん発揮してみましょう。

「数学」の目標（抄）→ **数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。**

※具体例・・・（［数学的活動］「Ａ数と式」「Ｂ図形」「Ｃ関数」「Ｄデータの活用」の学習を中心に、日常の事象や社会の事象を数理的にとらえ、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したり、総合的･発展的に考察したりする。数学的な表現を用いて、論理的に説明し伝え合う活動を行う。



答の式を書いて、説明します。

＜解説＞

数学については、現地校との進度差によって学習の理解に差が出る場合があったり、日本語の数学用語が分からなかったりする場合があります。補習校では、生徒の理解を助けるために数学用語を英語で説明する場合もあります。ホワイトボードに計算式を書いて解き、その説明をする場面はよく見られるところです。日本語で論理的な説明、説得力のある説明ができるよう、日ごろからの国語力を磨いておくことが必要です。補習校での基本は、やはり日本語力にあるといえます。

連　絡　事　項

今年度より、「おしらせ・通知表」の「所見欄」を「通信欄」とし、伝達事項のみの記述ができるよう改めました。保護者の皆様のご理解をお願いいたします。